



## 縄文土器の底は、なぜ先がとがっているの

### 縄文時代には、五つの時期がある

土の中から見つかった土器をきれいに洗ってみると、その中には、いろいろな模様がついているものがあります。その模様は、おもに縄目になっているので、このような土器を縄文土器といい、そのような土器が作られた時代を縄文時代とよびます。

縄文時代は、今から1万2000年前～2300年前くらいの間続いたといわれていますが、土器の移り変わりから、五つの時期に分けられています。それは、早期・前期・中期・後期・晩期です。

### とがっているほうが、火の回りがいい

土器の底がとがっていたりしているのは、ほとんど早期のものです。

この土器の使い方としては、中に物を入れて火にかけ、食べ物のにたきをしていました。その場合、底がとんがっているか、まるみをおびているほうが、火の回りがよいため、そのようにつくりになっているのです。

早期から前期に移るにつれて、土器の底はだんだん平らになっていきました。それは、物の中に入れてたくわえ、地面におくのに便利がよかったからです。それと同時に、土器の模様や形も、手のこんだものになりました。

模様や形がかざりとしての役目も、はたすようになったのでしょうか。（監修・田代 脩）

